

【京都府青少年育成協会会長奨励賞】

これからの日本を作るために

京都府立園部高等学校附属中学校 1年 西村 康介

昨年、選挙権が20才から18才に引き下げられました。その理由は若者の声を政治に反映させるためだと言われています。日本の政治は有権者に占める高齢者（シルバー）の割合が高く、高齢者層の政治への影響力が増す一方、若者の占める割合が低いため、当選したい候補者は高齢者向けの政策を打ち出すことから、「シルバー民主主義」と言われています。

総務省の平成26年の投票率を見ると、60代の投票率は約68パーセントなのに対し、20代の投票率は約36パーセントとなっています。

なぜ若者の投票率は低いのでしょうか。理由としては、「信頼できる政治家がない」「政治が難しい」などがあります。信頼できる政治家がないのは、若者の投票率が低く、若者向けの政策をしようとする政治家が現れないからだと思います。やはり、若者が政治に関心を示すことによって、若者向けの政策を立案する政治家がでてくると思います。

また、政治が難しいといいますが、私は政治は今までの学びや体験を総動員して考えるものだと思います。社会科で学ぶ歴史や経済、地理だけでなくすべての学びから、自分なりの考えを持って投票すべきだと思います。

若者の投票率が低いと、政治に若者の意見が反映しにくくなりますが、それによってどのような問題があるのでしょうか。その一つに国の借金問題が挙げられます。現在の日本の借金は約千兆円です。そしてそれは今も増え続けています。理由の一つとして、政治家が自分に票を入れてくれた高齢者に優遇政策を打ち出しますが、そこで増税などを言うと支持率が下がる可能性があるため、借金で政策を進めるといことがあります。しかし、その借金を返済していくのは私達若者です。18才以上の人には選挙権というすばらしい権利が保障されているのです。その権利がありながらも投票しないということは、いくら借金を背負わされてもかまわないと言っているようなものです。また、その借金を返すのは若者なのに、高齢者向けの政策を優先していけば、若者が恩恵を受ける政策に力を入れられなくなり、納税者である若者が減ることによって、結局は両者が損をすることになります。そのようなことをふまえて、若者が意志を示す大切さが分かります。

昨年、消費税を10パーセントに引き上げる予定でしたが、反対意見が多く実現しませんでした。しかし、私は増税したほうがよかったと思います。皆、自分のサイフのことばかりを考えていますが、千兆円の借金をどうする気なのでしょう。私はこの借金をできるだけ早く返したいと思います。未来を担う若者に借金を残してよいのでしょうか。また、日本は世界から見て、福祉がとても充実していると思います。しかし、世界の先進国の中ではかなり税率が低いのです。これは借金が増える理由の一つだと思います。

国民には税金を払う義務があります。その税金の使い方に意見をすることは当然のことです。そして意見をすることで税金がより民意に沿ったことに使われるようになります。

現在、少子高齢化が進み、このままだとこれからますます国の借金が増すことが予想されます。こんなときこそ我々若者がこれからの未来のために政治に参加し、持続的なよりよい生活を作るために声を上げていくべきだと思います。

私の住む自治体で選挙が行われたとき、私は有権者である父と、朝一番に投票所へ向かいました。父は1番目の投票者であったため、まず投票箱が空かどうか確認し、それを宣言した後に、投票用紙に記入し、投票箱に入れました、その間わずか五分程度のことです。投票まで考える時間はたくさんありますが、投票自体はわずかな時間ですむものです。

また、事前に選挙広報を読んだり、候補者の話を聞いておくことで、選挙の結果やその後の施策などを興味深く見ることができました。私は政治に参加することは、共に未来を語り合うことだと思います。そしてそれは決して面倒臭いことではなく、自分の意見を政治に反映できる素敵なことだと思うのです。

そのことを多くの人に伝え、共に未来を語り合いたい、様々な学びや体験をしてきたより多くの若者とこれからの日本を考えていきたいと思うし、そんな私達の未来は明るいものに違いないと確信します。